重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	地域の人がすべて災害に備えている	
施策名	地域防災力を備えたまちづくりを推進する	No.15

年度	平成27年度
責任部長	総務部長
主担当課長	危機管理室長
関係課	建築指導課、福祉課、高年福祉課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
家族で避難場所の確認ができている人の割合（%）	↗	66.6	67.3	66.4	67.0	67.9	65.6	77.2
		65.6	67.6	68.7	68.6			84.6
災害時に地域の要援護者を助ける体制が整っていると思う人の割合（%）	↗	9.7	10.1	10.9	11.4	11.4	10.9	17.9
		10.9	12.6	12.9	13.5			26.5
災害対策を行っている人の割合（%）	↗	29.0	31.4	30.6	31.3	37.3	36.9	42.7
		36.9	39.4	39.7	40.1			53.7

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

国の中央防災会議や県から南海トラフの巨大地震の被害想定が発表され、頻繁にマスメディアにより報道されている。また近年はゲリラ豪雨などによる被害も各地で発生しており、防災についての関心が高まっている。連区や町内会、企業では、防災訓練や防災教室など防災教育が行われている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	まちづくり指標については、停滞及び微増状態である。しかし、5年後の目標値に未達成であるためB評価とした。防災・減災に向け、引き続き各種事業を積極的に展開する必要がある。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
災害時に対して建物等の安全対策がとられている	災害に備えている人が増える		
建築物耐震改修促進事業	防災訓練事業		
民間木造住宅解体費補助事業	防災啓発事業		
民間木造住宅耐震診断事業	自主防災組織育成事業		
民間木造住宅耐震改修補助事業	避難行動要支援者支援事業		
民間木造住宅簡易耐震改修補助事業	災害時要援護者支援事業		
民間非木造建築物耐震診断事業			
民間非木造建築物耐震設計及び改修補助事業			
耐震シェルター等設置補助事業			

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は、災害時に対しての建築物等の安全に対する「ハード面」と、災害に備えている人の増加に対する「ソフト面」という切り口で捉えており問題ない。ハード面においては、耐震診断・耐震改修・老朽化建物の解体に対する整備を進めている。ソフト面においては、個々の住民の防災意識高揚が必要で、市の対策の充実だけでは達成しがたいものがある。市としては、今後ハード面の充実を進め、ソフト面からも防災事業を粘り強く継続していきたい。
次年度の改善計画	平成27年度中にSNSを導入し、防災情報の提供手段を増やすことにより、市民の防災意識の高揚につなげていく。

＊＊＊